熊本保健科学大学
週刊 NEWSLETTER
2023.3.17
第 187号
発行 入試・広報課

決意胸に 372人巣立つ

竹屋学長から学位記を受け取る本木麗紗さん（医学検査学科）

答辞を述べる、写真上から津路優栞さん（医学検査学科）、坂田雅美さん（看護学科）、岡本奏奈絵さん（リハビリテーション学科生活機能療法学専攻）

～令和４年度 卒業式・修了式～

令和４年度の卒業式・修了式が10日（金）、アリーナであり、学部、大学院、別科等で計372人が巣立っていきました。新型コロナウイルス感染防止のため、昨年に続き学科ごとの時差開催となりました。

看護学科の卒業式と助産別科の修了式は午前11時半に始まりました。竹屋元裕学長が卒業生と修了生の両代表に学位記や修了証を手渡し、「高齢化社会を迎え、医療の在り方も『治す医療』から『治し、支える医療』へと変化しており、看護師・保健師の果たす役割がますます重要になってきました。時代の流れを的確に捉え、高齢化社会を支える未来志向型の医療人を目指して頂きたい」と式辞を述べました。

在学生からの送辞を受け、坂田雅美さん（看護学科）が、「素晴らしい出会いと経験の一つひとつが大切なものであり、この４年間は、私の人生にとってかけがいのない時間。大学生活で培ったことを忘れず、熊本保健科学大学卒業生としての誇りを持ち、より広く社会に貢献していきたいと思います」と、答辞を述べました。

９時半からの医学検査学科と認定看護師教育課程脳卒中看護分野の卒業式・修了式では、津路優栞さん（医学検査学科）、14時半からのリハビリテーション学科と大学院保健科学研究科の卒業式・修了式では岡本奏奈絵さん（生活機能療法学専攻）が、それぞれ答辞に立ちました。

また、各式典では、総合成績最優秀者やGPA賞等の表彰もありました。

（NL編集部）

被表彰者名簿（敬称略）

【総合成績最優秀者】本木麗紗（医学検査学科）、坂田雅美（看護学科）、田中志穏（リハビリテーション学科理学療法学専攻）、岡本奏奈絵（同生活機能療法学専攻）、丸山愉貴（同言語聴覚学専攻）、永田莉帆（助産別科）

【GPA賞】本木麗紗、横尾楓、津路優栞、渡辺琴乃（以上医学検査学科）、坂田雅美、野中咲良、永野あいり、本田幸菜、本郷里奈、福岡希美、立神貴香、上村彩華（以上看護学科）、田中志穏（リハビリテーション学科理学療法学専攻）、岡本奏奈絵、宮永菜央、西村茉里、山崎友哉、西田朋加、大塚胡桃、吉永来夢（以上同生活機能療法学専攻）、丸山愉貴（同言語聴覚学専攻）

【優秀論文賞】田中綾香、平本淳也、鉾之原将希（以上大学院）

【酒匂賞】平澤佳歩（医学検査学科）、山内佑介（リハビリテーション学科理学療法学専攻）、山崎友哉（同生活機能療法学専攻）

令和４年度 卒業生・修了生ひと言

多くの出会い 充実の４年間／コロナ禍、仲間と乗り切る／支え合い走り切った

◆大塚 友詞さん（医学検査学科）

非常に早い４年間でした。日々の授業や臨地実習を通して、「考えすぎて行動が遅くなってしまう」という自分自身の課題を見つけることもできました。後輩たちにも、自分の反省点をしっかり見つけ、最善を尽くして行動してほしいと思います。

◆宮永 菜央さん（リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻）

コロナ禍の中での実習では、患者さんの言動から「どのような生活を大切にしてきたか」を読み取るのに特に苦労したのを覚えています。先輩、先生、そして仲間に支えられ、とても充実した４年間を送ることができました。

◆金井 大慈朗さん（リハビリテーション学科 理学療法学専攻）

４年生になると、長期実習が終わったかと思えば、すぐに国家試験対策と大変な時間ばかりでしたが、仲間と共に最後まで走り抜き、今こうして皆で笑って卒業式を迎えることができたのが何よりの喜びです。

◆河野 瑠香さん（看護学科）

私は人前で話すことが苦手でしたが、同じ悩みを抱えた仲間と励まし合ってここまで来ることができたので、とても感慨深いです。先生や仲間がどんなことでも一緒に悩み考えてくれました。４年間を熊保大で過ごせてよかったです。

◆松田 菜々子さん（助産別科）

実習に日々の勉強にと慌ただしい毎日でしたが、先生や、患者さん、そして共に努め励んだ仲間など、たくさんの人との出会いや支え合いが、一日一日に深みを与えてくれていたということを強く感じています。

◆坂田 圭士郎さん（大学院 修士課程 リハビリテーション領域）

研究活動を通して一つのテーマを突き詰めることの楽しさを学べた貴重な２年間だったと感じています。卒業後は、臨床と地域を繋ぐきっかけとなるような人材になれるよう努めていきたいです。

◆中野 真由美さん（認定看護師教育課程 脳卒中看護分野）

時にはくじけそうになることもありましたが、住む場所の異なる８人の仲間たちとの繋がりが感じられ、とても心強かったです。卒業後は、それぞれ所属する病院に戻り、脳卒中看護の取り組みを盛り上げていきたいと思います。

◆武岡 祐希さん（リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻）

コロナ禍の中では、鬱屈した時間を過ごすこともありましたが、自分自身と向き合う良い時間だったと感じています。国家試験前には、仲間と教えあったり、支え合うという経験を最後にできたので、悔いのない学生生活になりました。

本田 啓太講師

リハビリテーション学科理学療法学専攻の本田啓太講師の研究論文が英文雑誌Biomechanicsに掲載されました。論文タイトルは“Effect of Aging on the Trunk and Lower Limb Kinematics during Gait on a Compliant Surface in Healthy Individuals”（和文タイトル「柔らかい床面歩行時の下肢および体幹の運動学的特徴に対する加齢の影響」）。東北大学大学院の関口雄介非常勤講師、出江紳一教授との共同研究で、高齢者が不整地歩行時に選択する運動戦略の特徴を明らかにしました。

本田講師は「高齢者の生活空間の狭小化を防ぐために、加齢に伴う歩行能力低下のメカニズムを解明していきたい」と意気込んでいました。（入試・広報課）

２教員、英文誌に論文掲載

リハビリテーション学科
理学療法学専攻

リハビリテーション学科理学療法学専攻の田中貴士講師の研究論文が国際学術誌Neurochemical Researchに掲載されました。論文のタイトルは“ATF6β Deficiency Elicits Anxiety-like Behavior and Hyperactivity Under Stress Conditions”（和文タイトル「ATF6βの欠乏はストレス下における多動等の精神症状を引き起こす」）。本研究は田中講師と堀修教授（金沢大学）、森和俊教授（京都大学）、加藤伸郎教授（金沢医科大学）、親泊政一教授（徳島大学）の共同研究で、中枢神経の品質管理をしている小胞体ストレス応答因子(ATF6β）が精神機能に及ぼす役割を明らかにしました。

田中講師は「この成果を発展させ、脳や精神を良好な状態に整える方法を解明できるよう研究に努めてまいります」と今後の研究への意気込みを口にしました。（入試・広報課）

田中 貴士講師

スタッフ50人が連携 「広島野球障害検診」に参加して

医学検査学科 飯伏 義弘教授

野球少年の障害を早期発見するために広島県内の有志が毎年行っている「広島野球障害検診プロジェクト」。２月23日（木）に行われた今年の検診に、医学検査学科の飯伏義弘教授と原口実紗講師が参加しました。検診の内容など、飯伏教授に寄稿していただきました。

◇　　◇

２月23日に広島県医師会館で行われた、広島野球障害検診（HYMECS）2023の見学に行ってきました。コロナ禍のため３年ぶりの実施となりました。

この検診の最も重要な目的は外側型野球肘（正式には上腕骨小頭離断性骨軟骨炎）を早期に発見することです。この障害は痛みが出にくいため発見が遅れがちで、病院に行った時にはすでに進行しているケースが多く見られます。症状が進行した場合、約１年の投球休止や手術が必要となることがしばしばあります。一方で、早期に発見し対応すれば、手術をしなくても完全に治ります。

検診は整形外科医による診察、肘の超音波検査、理学・作業療法士による全身の柔軟性・筋力評価など約50名のスタッフであたりました。精密検査が必要と判断された場合は２次検診のための専門病院への紹介状を発行します。

今回の参加者は、小学校４年生から６年生の約110名でした。久しぶりの開催ということもあり、有所見率は約１割と高めでした。

全国的に広まっている野球障害検診ですが、熊本市では、ほとんど行われていません。原口講師も検者として検診に参加されました。取り組みに接し、本学でも何か協力できるのではないかと感じました。

検診後、記念撮影をする広島野球障害検診の関係者

アカデミックスキル
支援センター

レポート

新２年生指導員と広報スタッフ
週刊NEWSLETTER「新入生特別号」制作中

アカデミックスキル支援センターでは現在、新２年生となる学生指導員と学生広報スタッフ計６人が、入学してくる新入生と保護者に向け「NEWSLETTER（特別号）」の編集作業を進めています。

特別号は、４月の入学式の際に新入生とその保護者に配布するものです。A３版両面コピーで、本学の楽しさ、面白スポットなどを詰め込み、新入生の背中を押せるような内容の紙面を目指しています。

編集作業は２月初旬に始まりました。週１～２回の頻度で編集会議を開き、入学時に不安だったこと、知りたかったことなど、自分たちの経験に照らし合わせて内容を詰めました。コンテンツも決まり、記事も集まり始めています。いよいよ作業も佳境です。

スタッフ一同、新入生に「熊保大に入学してよかった」「明日から楽しみ」と思ってもらえるような紙面になればと思っています。自分たちの入学時の気持ちを思い出したり、１年次を振り返りながら、楽しく編集作業を行っています。

（アカデミックスキル支援センター学生広報スタッフ・岡村真来＝リハビリテーション学科生活機能療法学専攻１年）

「新入生特別号」の内容を話し合う学生指導員と学生広報スタッフ

アリーナで全身反応測定器を体験する西里小の先生と児童たち

西里小児童が本学“たんけん“

西里小学校の２年生41人が６日（月）、学内を見学しました。生活科の授業「西里のまちたんけん」の一環で、健康・スポーツ教育研究センターの松原誠仁准教授と中村祐貴さんがアリーナや図書館、レストランなどを案内しました。

当初は学内見学だけの予定でしたが、児童たちはアリーナ内にある３次元自動動作分析装置と地面反力計や全身反応測定器などの検査機器も体験することができ、楽しそうな声を上げていました。児童たちは「アリーナには機械がいっぱいあってびっくりした」「レストランのメニューが多くていいなと思った」「図書館に本がたくさんあった。僕も借りたいと思った」などと感想を述べていました。（入試・広報課）

子どもたちの苦悩、家族の思いと向き合う医師ら

テレビ朝日系 金曜放映 リエゾン－こどものこころ診療所

毎週金曜23時15分からテレビ朝日系で金曜ナイトドラマ「リエゾン-こどものこころ診療所」が放送されています。週刊漫画雑誌「モーニング」連載の人気漫画が原作で、「Dr.コトー診療所」シリーズで知られる吉田紀子が脚本を手がけています。

物語の舞台は、郊外にある緑に囲まれた児童精神科、さやま・こどもクリニック。院長を務める児童精神科医の佐山卓（山崎育三郎）を中心に、臨床心理士の向山和樹（栗山千明）、研修医の遠野志保（松本穂香）、看護師の川島雅紀（戸塚純貴）、言語聴覚士の堀凛（志田未来）らが診察を通じて子どもやその家族たちと向き合う日々を描いています。発達障害など心に生きづらさを抱える子どもたち１人１人が抱える苦悩、家族の思い、そこに真っ向から向き合っていく児童精神科医らの姿を通して、その背景に潜む社会問題について考えるきっかけにもなりました。

第３話では、言語聴覚士の仕事が紹介されていました。堀凛がクリニックや小学校の特別支援学級など様々な現場で活躍し、温かく真っすぐな心で子どもたちと向き合っていく姿が印象的でした。番組は10日の第８話で最終回を迎えましたが、オンデマンド配信も行われておりますので、ぜひご視聴ください。

（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻・平江満充帆）

定期健診でがん早期発見を

心と体の健康づくり研修会

衛生委員会による本学教職員を対象とした「心と体の健康づくり研修会」が２月17日（金）1300L講義室であり、リモートを含め65人が参加しました。

今回は昨年12月の定期健康診断で新たに導入されたオプション健診（個人選択）の中で最も希望者が多かった腹部超音波健診に対する理解を深めてもらうため、北海道・士別市立病院内視鏡センターの佐藤貴幸・内視鏡技術科長が「消化器疾患に関する健診と治療―消化器の検査を中心とした検査の話」と題して講演。佐藤氏は、内視鏡による日帰り手術も可能であるという消化器系がん治療の実際を紹介。また、さまざまな部位のがんについても、死亡数でなく罹患数の多さに注意が必要であると訴えました。

今日では２人に１人が罹患すると言われているがんですが、早期に見つけて治療すれば治る病気です。どうか「自分だけは大丈夫」と思わず、大学での定期健診・オプション健診で小さな異変を早く見つけ、早期治療に繋げて下さい。

（総務課）

銀杏アラカルト

■利益相反への理解深める　令和４年度の第２回利益相反に関する研修会が２月24日（金）、1300L講義室およびZoomを通じて開催され、本学園顧問弁護士の馬場啓弁護士＝**写真**＝が、大学における利益相反の基本的な考え方について、具体的な事例を入れながら講演しました。馬場弁護士は、「大学教員・研究者が象牙の塔に閉じこもって社会とかかわらなければ利益相反の起きる可能性はないが、それは望ましいことではない」としたうえで、「学外機関との研究活動はむしろ大学の社会貢献活動として必要なこと。その場合、大学に事前申請し、（不正な行為ではないかといった）あらぬ疑いを招かないようにすべき」と説明しました。

（利益相反マネジメント委員会）

■机上で防災・消防訓練　地震や火災発生の際の学内態勢を確認する防災・消防訓練が２日（木）1300L講義室で開かれ、オンラインを含め教職員122人が参加しました。本学では例年、避難訓練を行っていますが、コロナ禍のため今回は「防災」と「消防」に分割し、机上での実施となりました。防災訓練では、地震発生時の指揮系統と各分野の職掌を確認。消防訓練では建物ごとに組織されている自衛消防隊の地区隊の動きと各建物の注意箇所等を入念にチェックしました。両訓練とも総務課職員がパワーポイントやプロジェクターを使って解説にあたりました。（総務課）